

PRESS RELEASE

2024 年 12 月 19 日
株式会社 ispace

ispace、台湾国家宇宙センターと戦略的協業に向けた覚書を締結

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード [9348](#)）は、台湾の政府宇宙機関である台湾国家宇宙センター（以下 TASA）と将来的な月面探査における戦略的対話を進めるための覚書を締結しました。

本覚書は、TASA が主催する 2024 年台湾国際宇宙科学技術産業会議（以下 TASTI 2024）で行われた調印式にて締結されました。ispace はこれまで本覚書の発表につながる活動を TASA と継続してまいりましたが、今回初めて TASTI 2024 のスポンサー企業として同会議に参加いたしました。本覚書の合意により、ispace と TASA は今後さらなる協力関係構築に向けて協議して参ります。



2024 年 12 月 3 日に台湾国際宇宙科学技術産業会議で行われた調印式にて。
TASA の Deputy Director General、Tien-Chuan Kuo 氏（左）と ispace Executive Fellow
の齊木敦史（右）

2023 年に正式に宇宙機関として再編された TASA は、台湾内の宇宙技術の研究開発向上、宇宙関連政策および計画など、宇宙産業発展に向けた取り組みを重点的に行っています。TASA は成長を続ける宇宙経済の育成のため、台湾の宇宙プログラム開発と実施を担います。

■ 株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田武史のコメント

「このたび TASTI に参加し、TASA との合意により、将来の月面探査実施に向けた協力や、対話を進めていくことを発表でき嬉しく思います。当社の知見を以て協業することで、中長期的な月計画の構築を台湾で実現できることは、非常に光栄です。今後、共に大きな進歩を遂げることが出来ることを楽しみにしています。」

■ TASA 局長 Jong-Shinn Wu 博士 コメント

「TASTI での ispace との覚書締結は、日本との対話を促進し、有意義な交流を通じて台湾の宇宙開発を進展させるという我々の決意を反映しています」

ispace は、日・米・欧の 3 法人でそれぞれの地域の文化や多様性を活かしながら、1 つの統合的なグローバル企業として宇宙開発を進めてまいりました。最速 2025 年 1 月中旬に日本法人が主導するミッション 2、続いて 2026 年には米国法人が主導するミッション 3 を順次実行していく計画です。また、2027 年には、現在日本で開発中のシリーズ 3 ランダー（仮称）を用いたミッション 6 を予定しています。世界中の政府、企業、教育機関からの高まる需要に応えるため、ispace はミッション 3 およびそれ以降のミッションのペイロードサービス契約とデータサービスを提供してまいります。

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 の打ち上げは最速 2025 年 1 月中旬に、ミッション 3 は 2026 年ⁱ、ミッション 6 は 2027 年にⁱⁱⁱ打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされる予定。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

ⁱ 2024 年 12 月時点の想定

ⁱⁱ 2024 年 12 月時点の想定

ⁱⁱⁱ 2024 年 12 月時点の想定